

# 令和7年 12月の思いやり通信

## 目次

- (1)  温暖化ガス排出 世界で最多更新 昨年 2.3%増 国連が報告書
- (2)  地盤補強の杭を木製に 施工費 15%減、CO2 も抑制 積水ハウス
- (3)  温暖化対策 日本は 57 位 「削減目標が不十分」
- (4)  「曲がる太陽電池」耐用 30 年 従来の 3 倍、車載へ前進
- (5)  超省エネ住宅補助下げ 1 戸 160 万→110 万円



## (1) 温暖化ガス排出 世界で最多更新

### 昨年 2.3%増 国連が報告書

- \*2024 年の世界の温暖化ガス排出量は、前年から 2.3% 増えて過去最多。
- \*対策を強化しなければ、気温は今世紀中に最大で 2.8 度上昇。
- \*パリ協定参加国がそれぞれ確約した 2035 年までの温暖化ガスの排出削減目標を達成しても、2.3~2.5 度上昇すると予測。
- \*2024 年の排出量が最も多かったのは中国で 156 億トン。
- \*続いて米国 59 億トン、インド 44 億トン、欧州連合 (EU) 32 億トン、ロシア 26 億トン。
- \*日本の排出量は 2023 年度で 11 億トン。

(2025 年 11 月 6 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



## (2) 地盤補強の杭を木製に

### 施工費 15%減、CO2 も抑制 積水ハウス

- \*積水ハウスは戸建て住宅などの地盤補強に使う杭をコンクリート製から木製に移行。
- \*地上から地盤までの距離が短くても使える工法を開発。
- \*コンクリート製と比べて地盤補強にかかる工費を 10~15% 削減できる見込み。
- \*二酸化炭素 (CO2) の排出削減にもつながります。
- \*木製のため CO2 の排出量はコンクリート製と比べて戸建て住宅 1 棟あたり約 10 トン削減できます。

\*1997年には685万人だった建設業の就労者数は、2024年に477万人とピーク時から3割減少。

\*木製の杭はコンクリート製よりも軽く、運搬がしやすいため工期を1~2日短縮できる見込み。

(2025年11月11日　日本経済新聞記事より抜粋・引用)



### (3) **温暖化対策　日本は57位　「削減目標が不十分」**

#### **ドイツのNGO　64か国・地域評価**

\*ドイツの非政府組織（NGO）ジャーマンウォッチなどは、世界の主要64か国・地域の地球温暖化対策を評価。

\*日本は2024年から順位を1つ上げて57位。

\*5段階で「非常に低い」と評価されたグループのまま。

\*温暖化ガスの排出削減目標が不十分だと指摘。

\*パリ協定からの離脱を表明した米国は65位。

\*温暖化ガスの排出量やエネルギー供給に占める再生可能エネルギーの割合、温暖化政策など4項目14指標を分析。

\*すべての項目で高く評価できる国はなかったとして、1~3位は「該当国なし」。

(2025年11月23日　日本経済新聞記事より抜粋・引用)



### (4) **「曲がる太陽電池」耐用30年**

#### **従来の3倍、車載へ前進　コニカミノルタ、保護膜供給**

\*コニカミノルタは、ペロブスカイト太陽電池の耐用年数で従来の3倍の30年程度を実現。

\*ペロブスカイト型は軽くて薄く、ビルや車の屋根など曲面にも設置できます。

\*これまで耐用年数は5~10年程度と、一般的な太陽光パネルの半分程度にとどまっていました。

\*ペロブスカイト型の世界市場は2040年に3兆9480億円と、2024年（590億円）から急拡大します。

(2025年11月26日　日本経済新聞記事より抜粋・引用)



## (5) **超省エネ住宅補助下げ 1戸 160万→110万円**

### **対象戸数は倍増**

- \*国土交通省と環境省は2026年度、断熱性能に優れ、太陽光パネルなどを備える超省エネ住宅向けに1戸あたり110万円を支援します。
- \*2025年度の160万円からは引き下げ。予算額は1.5倍に増やします。
- \*従来の住宅からエネルギー消費量を35%減らし、高性能な断熱窓、高効率の給湯器などの設置を求めます。
- \*11月28日以降に工事に着手した住宅が対象。
- \*2025年度の補正予算案に2026年度分として750億円を計上。
- \*2025年度は500億円で予算額は1.5倍。
- \*補助できる住宅数は2025年度の約3万戸から2倍の6万戸に増える見通し。

(2025年11月29日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

